

2014年11月10日

国立大学法人北海道大学

総長 山口 佳三 様

北大生・宮澤弘幸「スパイ・冤罪事件」の真相を広める会

代表 山野井孝有

代表 山本 玉樹



再回答要請書

10月31日、私たち「真相を広める会」に、10月30日付け山口佳三総長名の『「心の会の碑」(仮称) 建立について』なる文書が郵送されてきました。

これは9月30日付けの私たちの申入れに対する貴職の「回答」の形をとっていますが、理由も示されないまま「応じることができません」とする、いわば問答無用に近い「回答」に、私たちは正直驚きを禁じ得ません。しかも「碑を建てる土地の提供がだめなのか」、「話し合いの機会をもつことがだめなのか」、「両方がだめなのか」は、文章としても明確ではありません。そのいずれであっても、これは今日まで双方で積み上げてきた理解と信頼の関係を大きく損ないかねないものだと言わざるを得ません。

宮澤事件を冤罪と受けとめ、宮澤弘幸さんを顕彰する意味をもつ宮澤賞を設けた北大の立場と、「心の会の碑」(仮称) 建立の私たちの要求とはそんなにかけ離れたものとは思えません。今回の「回答」は、二人の元北大総長をはじめ碑建立に賛同する多くの人たち、そして何よりも宮澤さんの妹・秋間美江子さんの思いを大きく裏切るものと言わざるを得ません。もし北大の立場が変わらないとするならば、私たちは運動の原点にもどって、これまでの北大の対応を検証し、建碑への国民の世論をさらに喚起していかざるを得ないと考えております。

碑を建てるための土地の提供と、どのような碑を建てるのかは関係することかもしれません。9月30日付け申入れ書に記した碑のイメージは、私たちの現時点での案です。どのような碑を建てるかについては大いに話し合いの余地があるものと考えております。

9月30日、「心の会の碑」(仮称) 建立賛同者350余人の名簿をお渡しました。その後も賛同者が増加しています。賛同者名と建立に賛同する意見を特集した「真相を広める会」会報を同封いたします。ここに込められた思いをしっかりと受け止めていただきたいと考えます。

私たちは貴職に、「心の会の碑」(仮称) 建立について、私たちと話し合いの機会をもっていただけるよう再度要請致します。12月6日までに誠意ある回答をいただきたいと思います。

以上